希望新聞

東日本大震災希望新聞取材班
〒100−8051（住所不要）毎日新聞生活報道部
ファクス03・3212・5177
メールkibou@mainichi.co.jp

被災地に役立つ情報や「伝言板」への投稿をお待ちしています。被災者の今困っていることも募集します。投稿は、氏名、住所、年齢、職業、電話番号（あればメールアドレスも）を明記してください。

東日本大震災 サポート情報

13日現在

労働・雇用

震災で行方不明の人が亡くなったと推定して、労災保険の遺族請求や未払い賃金の立て替え払い申請を受け付ける手続きが始まった。

労災保険は、業務中または通勤中に被災し、行方不明になった人の家族が請求できる。

震災で行方不明になり、勤めていた企業も倒産状態になった人の家族は、未払い賃金の立て替え払いを申請できる。この場合は震災発生日に退職したとみなされ、退職から6カ月以内に申請する必要がある。各地の労働局や労働基準監督署が相談に応じる。

＜岩手＞
◆労災の相談＝岩手労働局労災補償課☎019・604・3009◆未払い賃金の相談＝同監督課☎019・604・3006
▽盛岡労基署☎019・621・5115▽宮古労基署☎0193・62・6455▽釜石労基署☎0193・23・0651▽花巻労基署☎0198・23・5231▽一関労基署☎0191・23・4125▽大船渡労基署☎0192・26・5231▽二戸労基署☎0195・23・4131

＜宮城＞
◆労災の相談＝宮城労働局労災補償課☎022・299・8843◆未払い賃金の相談＝同監督課☎022・299・8838
▽仙台労基署☎022・299・9071▽石巻労基署☎0225・22・3365▽古川労基署☎0229・22・2112▽大河原労基署☎0224・53・2154▽瀬峰労基署☎0228・38・3131

＜福島＞
◆労災の相談＝福島労働局労災補償課☎024・536・4605◆未払い賃金の相談＝同監督課☎024・536・4602
▽福島労基署☎024・536・4610▽郡山労基署☎024・922・1370▽いわき労基署☎0246・23・2255▽会津労基署☎0242・26・6494▽白河労基署☎0248・24・1391▽須賀川労基署☎0248・75・3519▽喜多方労基署☎0241・22・4211▽相馬労基署☎0244・36・4175

こころ

日本精神衛生学会「東日本大震災心の相談電話」☎0120・111・916、月～土19～21時。被災者やその支援活動にあたる人の精神的な悩みについて、臨床心理士や保健師、医師らが相談に応じる。

東京都立小児総合医療センター「震災後のこどものこころ電話相談室」☎0120・556・465、平日9時半～16時半。3歳前後から高校生までの被災者または家族の相談に、児童精神科医師や精神保健福祉士などの専門家が応じる。

岩手県精神保健福祉センター・災害時ストレス健康相談窓口☎019・629・9617、9～17時、土日祝日も対応。

宮城県こころの健康相談電話 6～9時、17時～翌2時（☎0229・23・3703）、9～17時（☎0229・23・0302）。土日祝日も対応。

福島県こころの健康相談ダイヤル ☎0570・064・556、平日9～17時。

ボランティア

民間ボランティア団体がボランティアツアー参加者を募っている。

◇盛岡発沿岸被災地支援ボランティアバス
18、19日。盛岡発着の大槌町行き日帰りバス（定員45人）。盛岡市災害ボランティアセンター主催。6時半JR盛岡駅マリオス正面、6時50分ふれあいランド岩手。帰着は19時予定。がれきの撤去や泥出し、家財道具の整理、物資の仕分けなど。作業ができる服装で、スコップ、飲料水、食料持参。事前に居住地または最寄りの社会福祉協議会でボランティア活動保険「天災タイプ」に加入する。バス運賃は無料。

申し込みは盛岡市社会福祉協議会☎019・651・1000（8時半～19時、18日は15時まで）。

イベント

＜宮城県＞
住民約540人が避難している宮城県南三陸町黒崎の南三陸ホテル観洋（☎0226・46・2442）が、館内で被災者向けイベントを開いている。ホテルはボランティアの宿泊も可能。イベントはいずれも無料。

16、17日＝みずほ銀行臨時窓口設置（16日11時半～12時半、17日13時～13時半）▽19日＝中村亜矢子ピアノコンサート（15～16時）▽25、26日＝本吉住花ピアノコンサート（13時～15時半）▽29日＝雅楽演奏会（9時半～10時）

＜千葉県＞
野菜市 千葉市花見川区の「こてはし温水プール」と、同市中央区の「フクダ電子アリーナ」で、両施設の指定管理者が、JA千葉みらいとJAきみつの協力で、千葉県産の野菜を販売。売上金の一部と、会場で集められた義援金を、同市を通じて被災地へ送る。こてはし温水プールは14、28日、7月12、26日の11時～16時半。フクダ電子アリーナは7月10日、8月7日、9月11日の10～16時。

＜東京都＞
「東京災害支援ネット」は、17日11時から、東京都千代田区麹町6の5の1のカトリック麹町聖イグナチオ教会で、東日本大震災避難者をサポートする「617チャリティデイ」を開く。

首都圏に避難している被災者に、家電や衣類など生活用品を無償で提供したり、相談コーナーで弁護士、司法書士、税理士らが法律や税金の相談に応じる。軽食コーナーや子ども用のスペースもある。一般参加も可。

支援物資の提供も呼びかけている。炊飯器などの家電用品、夏用衣類や寝具（いずれも新品）、台所用品など。16日までに同教会気付「617チャリティデイ・バザー宛」に送付か持ち込む。詳しくは同ネット事務局☎080・3502・7330に問い合わせを。

書籍・絵本

書籍取次会社のトーハン（本社・東京）は、震災の影響で休業中の書店をサポートし、被災者に活字文化を届けようと、被災地での本の臨時販売を支援している。

16日まで、宝文堂ブックサービス教科書販売所（宮城県塩釜市旭町16の10）で書籍、雑誌、コミックなど約3000点を販売中。営業時間は10～16時。

「夏用衣類」が不足

ニーズ情報

被災者が求める物資や人的支援情報をお知らせします。必ず事前連絡をお願いします。

■遠野まごころネット
（岩手県遠野市）☎0198・62・1001
tonomagokoro@gmail.com
http://tonomagokoro.net/

標準サイズの夏用Tシャツや下着類求む 岩手県陸前高田市の陸前高田第一中学校の避難所が、夏服の支援を求めている。避難所の人は「下着やTシャツを大量に送っていただいたが、サイズが極端に小さいものと大きいものに分かれ、標準サイズが少ない。せっかくのご厚意をいかせてないのが残念」と話しているという。

標準サイズ（男女ともS、M、Lサイズ）のTシャツや下着類（いずれも新品）を募集。特に女性用が不足している。送付先は同ネット（〒028−0541 岩手県遠野市松崎町白岩薬研淵1の3）。

■ふくふくプロジェクト
（福島市）☎024・526・4533
project@fukushima.com
http://www.f-npo.jp/

おもちゃ、はさみ・セロハンテープ・色紙など工作用具求む 避難所の子どもたちに、未来の海をテーマにまちの模型を自由に作ってもらうワークショップが、福島市で連続開催されている。

福島市と東京の建築家、美術家らが震災直後に企画。子どもたちの模型には海への愛情や望郷の思いが表現されている。

次回4回目は6月25日11～18時、福島市のあづま総合体育館（避難所）で。子どもの夢を応援するため、おもちゃ、はさみ、セロハンテープ、色紙などの工作用具の継続的な支援を求めている。

問い合わせは「Creative for Humanity」アサノさん☎070・5464・1586へ。

ボランティア

尾﨑剛通さん

ボランティアグループ「紀州梅の郷救助隊」の隊長を務める和歌山県みなべ町の消防団第4分団長、尾﨑剛通さん（62）は、地震発生から3日後に福島県相馬市に向かった。

被災した住宅の修理などに当たったほか、その後も新潟県柏崎市で被災者のための炊き出し、宮城県気仙沼市で行方不明者の捜索などに加わった。

被災地に赴く際は、たる詰めした和歌山県産の梅干しを必ず持参し、被災者らに提供している。仕事の都合などで被災地へ行けない人たちから託された肉や野菜、子ども服なども届けた。支援の輪はみなべ町周辺の町にも広がった。沖縄の子どもらから寄せられた手作りマフラーも届けている。

「物資を届けることも大切だが、被災者に喜ばれたのは一緒に調理をしたり、子どもらと話したりすることだった」とも。

柏崎市の避難所では、救助隊の女性でつくる「梅ママ隊」のメンバーに女子生徒3人が加わり、被災した主婦らと料理もした。主婦らは「久しぶりに料理ができ、落ち込んでいた気持ちが晴れました」と楽しそうだったという。

女子生徒らは、同じように高校進学を控えながら、震災で受験できなくなっていた福島県の女子生徒と友達になった。

尾﨑さんは「これからは心のケアが大事になる。子どもと高齢者は身も心も限界に達していると感じた」と語る。

現在、医療、介護、保育関係など専門知識を持った人らのボランティア参加を呼び掛けている。【山中尚登】

今後は心のケア重要

「紀州梅の郷救助隊」 専門家を募集

お客さんの励まし力に

宮城

被災ペットを保護する「石巻地区動物救護センター」で犬のトリミングのボランティアをする岩城知子さん（37）「経営する犬の美容室が津波で泥にまみれ、一時はあきらめかけました。でも、お客さんから『なくなると困る』と励まされ、3月末から徐々に再開できました。津波でペットを失い、肩を落としている人は多いですが、数十日ぶりにセンターで飼い犬と再会したという方もいます。活動を支えている多くの県外ボランティアの皆さんに本当に感謝したいです」【近藤希美】

被災した犬のケアをする岩城知子さん

岩手

釜石市中妻町の避難所で食事の世話をする両石町婦人部の松本ミサヲさん（64）「両石町民が暮らすこの避難所は、町の婦人部メンバーが協力して支援物資を使ったみそ汁やおかずなどの食事を作っています。先日はニンジンやこんにゃくの煮物を作りました。今でも100人分の食事を避難所内に設けた調理場で作るので時間がかかります。避難所生活は3カ月近くになりますが、食事作りは続けたい」【稲垣衆史】

松本ミサヲさん

声 被災者から

キーボードを子どもへ

伝言板

▼キーボード送ります
茨城県神栖市の菅宮かおりさん（39）が、カシオの光ナビゲーションキーボード（LK−55、縦35㌢、横92㌢）を、被災地の保育園や幼稚園に送ります。ロックやジャズなどのリズムが100以上▽ピアノ、オルガン、バイオリンなどの楽器の音137トーン▽「だんご3兄弟」「エリーゼのために」などアニメ曲、クラシック曲が100曲内蔵されています。約10年前の購入で取扱説明書はなく、サウンズブック（楽譜）はあります。送料は菅宮さんが負担。希望の園は、園名、住所、連絡先を明記して毎日新聞「希望新聞」あてにファクス（03・3212・5177）を送ってください。

▼VHFアンテナ送ります テレビアンテナの部材販売をしている「エアコンビ」が、地デジ移行が最長1年延びた被災地の電気店やアンテナ工事業者に、VHFアンテナを無料で送ります。8素子タイプ（約4000円）2本、10素子タイプ（約7000円）2本の計4本です。送料は同社が負担します。店名▽住所▽連絡先を明記して、ファクス（03・3418・4340）を送ってください。

▼電子レンジと電気ポットは宮城県東松島市へ
10日掲載の岐阜県の女性（61）の新品の電子レンジと電気ポットは、宮城県東松島市の小堀あきさん（90）宅に発送されました。同居している長男の妻いま子さん（58）によると、津波で自宅の1階は柱と壁だけになって2階が残り、家財道具が流されました。水道、ガスの復旧はまだです。レンジは50㌻用に直して使うそうです。いま子さんは「避難している福島県郡山市も原発事故で安全と言えなくなり、落ち着きませんが、お礼のお手紙を書きます」。

■被災地へボランティアに行くには■

各地の災害ボランティアセンター（VC）が被災地で活動するボランティアを募っている。電話で問い合わせる前に各サイトで情報の確認を。また、被災地に赴く前に居住地の社会福祉協議会でボランティア活動保険に加入することが望ましい。主なVC窓口は次の通り。

＜岩手県＞
県VCや各社協が内陸部に拠点を設け、沿岸部の被災地に送迎バスを出している。
◆県VC ☎019・637・7594 サイトでは個人参加できるボランティアバスの運行状況や各VCの募集情報を公開中
◆遠野市VC「遠野まごころネット」 ☎0198・62・1001 遠野市総合福祉センター発着便で沿岸部の被災地に毎日ボランティアを派遣。登録も随時受け付け。要事前申し込み。寝袋持参で体育館宿泊可
◆宮古市VC ☎090・4478・3984 個人、団体とも1週間前までに電話連絡を
◆陸前高田市VC ☎090・2852・9736 できるだけ2人以上で参加し、3日前までに連絡
◆大槌町社協VC ☎080・3518・8490 5人以上の団体で要事前登録。個人参加は県VCの盛岡発ボランティアバスを利用する

＜宮城県＞
各VCが県外からの個人ボランティアも受け付けている。詳細は各VCのサイトで。
◆仙台市VC ☎022・231・1326 5人以上での参加は先着50人まで、要事前申し込み
◆石巻市VC ☎0225・23・6015 10人以上の団体は要事前連絡
◆気仙沼市VC ☎080・5949・7475 10人以上の団体は3日前までに事前連絡
◆名取市VC ☎022・784・3029 団体は要事前問い合わせ
◆多賀城市VC ☎080・5949・7501
◆岩沼市VC ☎080・5949・7541 8人以上の団体は要事前申し込み
◆東松島市VC ☎0225・82・9812 車中泊スペースあり。土のう袋をなるべく持参。5人以上のグループは早めに事前申し込みを
◆亘理町VC ☎080・5949・7719 団体は要事前申し込み
◆山元町VC ☎080・5949・7720 要事前申し込み
◆七ケ浜町VC ☎090・6853・4490 団体は要事前申し込み
◆南三陸町VC ☎080・2055・1066 県内外問わず団体も受け入れ中

＜福島県＞
◆県VC ☎024・522・6540
◆相馬市VC ☎0244・36・7827
◆南相馬市VC ☎0244・24・1877 公式ホームページで活動内容や注意事項の確認を
◆新地町VC ☎0244・62・5577 要電話確認。毎週木曜は活動休止日。テント泊、車中泊は禁止
◆いわき市VC ☎0246・22・5501 団体は要事前申し込み

◆電◆話◆帳◆

●行方不明者・震災関連相談ダイヤル
岩手県警 0120・801・471
宮城県警 022・221・2000
福島県警 024・522・2151（内線3024）

●医療
文部科学省健康相談ホットライン・放射線関連 0120・755・199（9～18時）
放射線医学総合研究所相談窓口 043・290・4003（9～17時）

●生活支援
日弁連電話相談0120・366・556（平日10～15時）
岩手弁護士会 0120・755・745（月～土曜13～16時）
仙台弁護士会0120・216・151（平日10～19時）
福島県弁護士会024・534・1211（平日14～16時）
あしなが育英会 被災者専用 0120・77・8565（遺児らに特別奨学一時金を支給）
チャイルドライン 0120・99・7777（月～土16～21時、18歳までの子ども向け）
震災関連の悪質商法110番 0120・214・888（10～16時）

●省庁 ※平日のみ
公営住宅等情報センター 0120・297・722（9～18時。全国の公営住宅などを紹介）
住宅の補修・再建（国交省） 0120・330・712（月～土）
行政相談（東北管区行政評価局） 0120・511・556
金融相談（東北財務局） 022・721・7078
中小企業相談（経産省） 0570・064・350
農林水産業の被害相談（農水省） 0120・355・567
年金の相談（日本年金機構）0120・707・118※

●金融・保険 ※平日のみ
預金口座照会センター（全国銀行協会） 0120・751・557※
災害地域生保契約照会センター（生保協会） 0120・001・731※
そんがいほけん相談室（日本損保協会） 0120・107・808※
携帯・PHSからは03・3255・1306※

●移転した役所
＜岩手県＞
陸前高田市 高田町鳴石 0192・54・2111
釜石市 シープラザ釜石 0193・22・8253
大槌町 大槌小学校 0193・42・2111
＜宮城県＞
女川町 女川第二小学校 0225・54・3131
南三陸町 町総合体育館ベイサイドアリーナ南側テニスコートの仮庁舎 0226・46・2600
＜福島県＞
広野町 FDKモジュールシステムテクノロジーいわき工場 0246・43・1331
楢葉町 会津美里町本郷庁舎0242・56・2155
富岡町 郡山・ビッグパレット 0120・336・466
川内村 郡山・ビッグパレット 0120・38・2119
大熊町 会津若松市追手町第2庁舎 0242・26・3844
双葉町 旧埼玉県立騎西高校0480・73・6880
浪江町 県男女共生センター（二本松市）コールセンター 03・5638・5055
葛尾村 旧法務局会津坂下出張所 0242・83・0271

★一時立ち入り受付センター0120・208・066 警戒区域9市町村への一時立ち入りを申し込める。8～20時

三陸物語 Sanriku Monogatari

全盲の鍼灸師 藤原正さん❶

「偶然重なり、生かされた」

町を破壊し、通信も途絶させた大津波。「情報障害者」と呼ばれる視覚障害者の心の目に、それはどう映ったのか。

◇

「偶然が重なり、生かされた」。全盲の鍼灸師、藤原正さん（53）は幾度も繰り返した。岩手県大槌町の自宅兼鍼灸院は海から100㍍弱の距離にあった。最初の偶然は、娘が家に居合わせたことだった。

3月11日。診療を終えて治療室のベッドで横になっていたら、突き上げるような縦揺れに横揺れが続き、落ちそうになった。棚や机から空気清浄機やラジカセやパソコンが落ちる音がして、消毒用の洗面器がひっくり返って床をぬらした。

目は見えなくても、音や触覚で状況は「見えた」。台所で食器が割れる様子も壁越しに分かった。

妻と長男、娘3人の6人家族。長男は盛岡の専門学校生。妻は近くの温泉施設でマッサージの仕事中だった。娘3人は午前授業で、昼食の後に高2（当時）の長女は外出し、中2（同）の双子姉妹は居間にいた。

「大津波では、必ず引き波あっから」。町内に住む母親（76）は常々、孫に藤原家の1階が波につかった1960年のチリ地震の津波の話を聞かせていた。それを思い出した時、三女の声がした。「側溝の水、全然ねえっけ。底見えるっけ」

「逃げっぞ、準備しろ」。娘2人に声を掛け、長女に携帯電話で「家に戻れ」と命じ、ジャンパーを着て雨戸を閉める。階段や廊下には物が散乱していた。通帳や印鑑を入れたバッグを拾い上げ、床に落ちたラジオは手探りで見つけた。

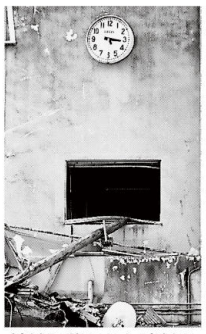
娘2人と玄関に鍵をかけていたら、長女が自転車で戻ってきた。

午後3時過ぎ。津波到来まで約10分という時間だった。母と妻は藤原さんの身を案じ、自宅に急いでいた。

【萩尾信也、写真も】

◇

「三陸物語」は火～土曜日に掲載します。


津波に襲われた時刻で止まった大槌町役場の時計。加藤宏暉町長や多くの職員が亡くなった